



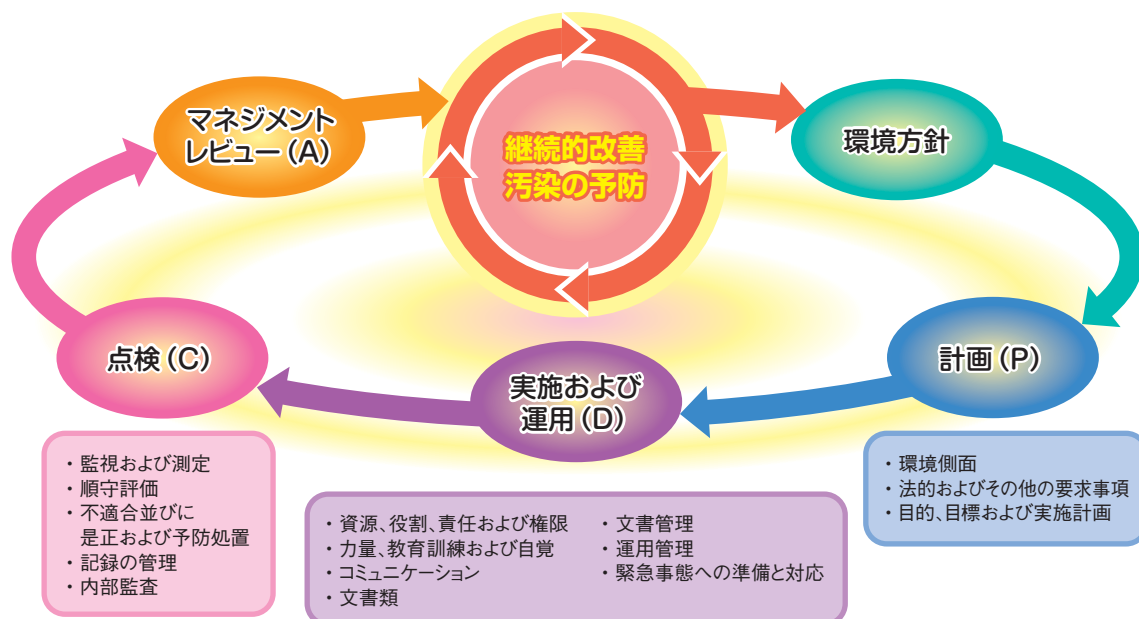
12.環境マネジメントシステムの概要

環境マネジメントシステムの概要

環境マネジメントシステムとは

組織が環境の方針 (Policy) を定めて、目的と目標を設定し、取り組みを実施するための「計画 (Plan)」を決めて「実施活動 (Do)」し、「活動状況を確認 (Check)」したうえで、次の活動へと進むために「見直し (Act)」をして継続的に改善をする仕組み (PDCAサイクル) のことです。

ISO14001では、組織を会社、事業所、自治体、団体のことを指していますが、ここでいう組織は三重大学のことになります。



【PDCAサイクルによるマネジメントシステム】

本学では教育研究機関として独自の環境マネジメントシステムを構築・運用して、国際的な環境マネジメントシステム規格のISO14001の規格に合った取り組みをしています。平成25年度の環境マネジメントシステム活動として、環

境方針とそれを達成するため行われた「マネジメントシステム体制 (組織図)」、「環境目的・目標」、「目標の達成状況」、「環境内部監査」、「外部機関による審査 (更新審査)」、「学長による見直し」の項目ごとに分類し報告します。

【平成25年度の環境方針】

平成25年度の環境方針は、次のような取り組みを進める決意を表し活動をしました。

教育

- (1) 持続可能な社会の実現に向けて、地球規模で環境を学んで地域に立脚し実行できるよう、鋭い観察力、強靱な思考力、的確な判断力を養うための環境教育プログラムを開発し、先進的な環境知識と行動力、環境マインドを兼ね備えた学生を社会に輩出する。

研究

- (2) 地域の企業・行政・研究機関との協働による環境科学技術研究を重点的に推進する。大学キャンパスや施設を活用し、地球温暖化防止、自然共生、資源・エネルギー利用等の革新技術の実現化立証に供する。

社会貢献

- (3) 自然環境を生かした美しい大学として施設を創設・整備して市民に開放しつつ、地域社会で活動する各種環境団体・市民団体・企業・行政等との協力関係を結んで地域との協働の場として活用し、情報発信の拠点とする。

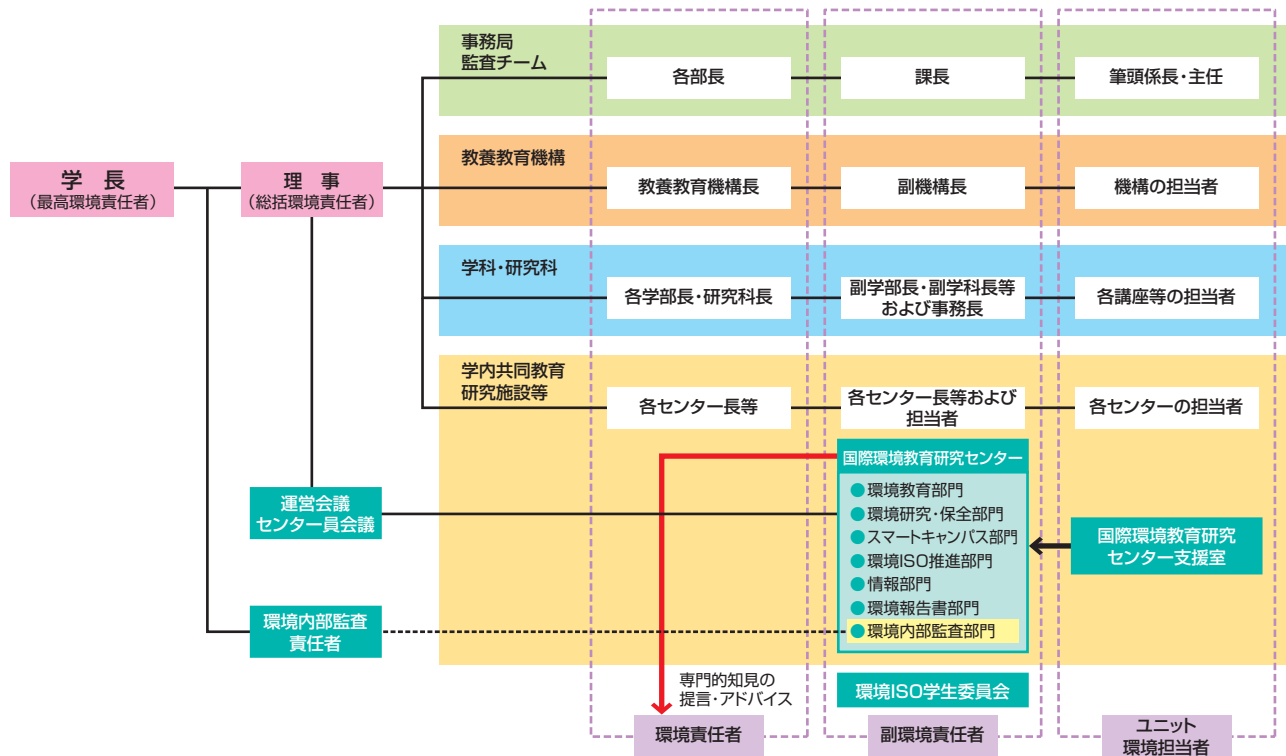
業務運営

- (4) 全学が、ISO14001規格に準拠した環境マネジメントシステムを運用することにより、大学自らが資源の利活用やエネルギー消費低減に努め、低炭素社会・循環型社会の実現に向けて努力する。

環境マネジメントシステム

三重大学環境マネジメントシステム組織図(環境リスクマネジメント体制も同組織で対応)

(H26.4.1~)



【平成26年度 三重大学環境マネジメントシステム組織体制図】

環境管理推進体制

平成25年度の組織体制は、全学組織として環境管理推進センターが環境マネジメントの運営管理を行い、総括環境責任者である理事（環境担当）・副学長がセンター長として、各部局から推薦された教職員およびセンター長が必要と認めた教職員27名と環境ISO学生委員会の代表者6名を含めた33名（平成25年4月25日現在）で構成しています。全体の会議と各部門の会議を開催し、全体の会議では各部門の活動報告、本学EMSについての今後の方針を協議しています。会議には構成員である環境ISO学生委員会も参加して活動報告を行っています。環境管理推進センターには支援室を環境・情報科学館（メープル館）に設置し、学内と学外への環境情報の発信

大学全体への環境マネジメント環境教育（省エネ・EMS研修会）

平成25年6月19日、「教職員向けの省エネおよび環境マネジメントシステム研修会」を、環境・情報科学館1階ホールにおいて行い135名の教職員が参加しました。

研修では、朴 恵淑理事（環境担当）副学長より、『「世界一の環境先進大学三重大学」の省エネ大作戦Action』の取り組み説明に続き、スマートキャンパス部門長から「スマートキャンパス実証事業」の解説、環境ISOアドバイザー

拠点としての役割を担っています。

平成26年度は、本学の環境方針に基づき、環境教育・環境研究を一層推進するとともに、低炭素活動に積極的に取り組むなど、その実現のための環境活動を推進することを目的として、環境管理推進センターを母体に、廃棄物の処理業務を担う環境保全センターが機能統合をして、平成26年4月に国際環境教育研究センターが設置されました。



環境管理推進センター会議



教職員向けの省エネおよび環境マネジメントシステム研修会

環境マネジメントシステムの状況

本学は、平成25年度上浜キャンパス(附属病院を除く)において「学生を中心とした環境活動の成果」と全教職員より築き上げた環境マネジメントシステムが、国際標準規格ISO14001:2004の要求事項に適合していることが

確認され、平成25年10月4日、「ISO14001」を継続認証しました(初期登録平成19年11月)。今後も、教職員・学生および大学で活動する者が一丸となり、環境マネジメントシステムを循環させ、継続的改善を図っていきます。

年 月 日	活 動 内 容
平成25年 4 月 3 日	環境ISO学生委員会が全学および各学部の(医学部は4月5日)オリエンテーションにて、エコバッグ・エコキャンパスカードを新入生に配布。ゴミの分別方法、古紙回収などの説明および委員会の活動紹介を実施。
4 月 9 日	学内放置自転車を回収・修理し、留学生に20台を無償譲渡。
4 月22日	「第22回地球環境大賞」文部科学大臣賞を受賞。
4 月30日	環境資格支援教育プログラムおよび持続発展教育(ESD)プログラム修了証を学長から授与。
4 月19日、4月24日	環境ISO学生委員会が学内の落ち葉で作成した堆肥を、附属学校とシャープ(株)三重工場へ譲渡。
5 月19日、7 月21日他	本学に隣接する町屋海岸にて、環境ISO学生委員会と地域住民と協働した海岸清掃の実施。(計5回)
5 月23日、7 月25日他	教職員、学生によるキャンパスグリーン作戦の実施。(計3回)
6 月19日	教職員を対象にした「平成25年度省エネおよび環境マネジメント研修会」の実施。
6 月21日、24日	環境ISO学生委員会が北立誠小学校4年生に環境学習を実施。(計5回)
6 月25日	教職員・学生・近隣住民対象に、「緑のカーテン講習会」を実施。
6 月26日	ASEAN諸国大学生と本学学生交流会にて、MIEUポイント制度の体験を目的に仕組みを説明。自国での環境活動実践を約束し、MIEUポイントの特別会員として500ポイントを発行。
7 月	環境関連法規制の順守確認。
7 月 3 日	環境管理推進センター員対象に「ISO14001規格と三重大学の取り組み」の教育の実施。
7 月 5 日	環境ISO学生委員会が、日本の伝統・文化の継承と、節電について考える七夕イベントの開催。
7 月26日、10月11日他	全学生対象に、「持続発展教育(ESD)プログラム説明会」を実施。(計3回)
8 月～9 月	環境責任者・ユニット環境担当者に、ISO基本研修の実施。
8 月20日	名古屋大学「環境報告書」への第三者評価を実施。
8 月26日～27日	環境ISO学生委員会が、「第7回全国環境ISO学生大会」に参加。
8 月27日～30日	学生向け「環境内部監査員養成セミナー」(4日間)および教職員向け「環境内部監査員養成研修」(2日間)の受講者(学生9名、教職員23名)に環境内部監査員資格付与。
9 月 4 日	「スマートキャンパスとスマートコミュニティ」をテーマに環境座談会を実施。
9 月17日	本学とシャープ(株)の環境報告書(CSR報告書)の意見交換会を実施。
9 月17日	名古屋大学による本学環境報告書2013の第三者評価の実施。
9 月18日	本学と中部電力(株)の環境報告書(CSR報告書)の意見交換会を実施。
9 月20日	三重県による本学環境報告書の第三者評価を実施。
9 月	「三重大学環境報告書2013」を作成し、冊子およびWeb上で公表。
10月 2 日～4 日	ISO14001更新審査を受審、認証の更新が認められた。
11 月 5 日	「第4回CAS-Net JAPAN設立準備会議」において環境ISO学生委員長が、委員会活動報告。
11 月 8 日	立命館大学による本学の環境活動のヒアリングおよびスマートキャンパス施設見学。
11月14日	南米ICETTの研修生による本学の環境活動の取り組みについての研修。
11月22日	スマートキャンパス設備説明会を開催し、本学学生25名・他大学学生2名が参加。
11月25日	福井大学による本学の環境活動のヒアリング。
12月 2 日	「三重大学・中部電力(株)とのエネルギー環境教育協働事業」三重大学エネルギー環境教育プログラムにて、瑞浪超深地層研究所およびベレトロン年代測定装置の施設見学。
12月 6 日	愛知県立大学による環境活動ヒアリング。
12月12日～14日	「エコプロダクツ2013」にブース出展。
12月14日	第5回エコ大学ランキングで総合1位を受賞し、エコプロダクツ2013会場で行われた授賞式に参加。
12月19日	環境ISO学生委員会が、第14回中部の未来創造大賞優秀賞と特別賞・中日新聞社賞を受賞し、名古屋合同庁舎で行われた表彰式に出席。
平成26年 1 月10日	文部科学省山中事務次官による、共通教育科目「環境教育実践(MIEUポイント)」の視察。
1 月15日～2 月27日	定期環境内部監査の実施。
1 月	構成員および本学のために働く人々に環境影響調査の実施。
2 月13日～18日	後期「環境内部監査員養成セミナー」受講者(学生5名)に環境内部監査員資格付与。
2 月27日	大阪府立大学による本学の環境活動のヒアリング。
3 月15日	「三重大学・中部電力(株)とのエネルギー環境教育協働事業」三重大学エネルギー環境教育報告会の実施
3 月17日	「第17回環境コミュニケーション大賞環境報告書部門」環境配慮促進法特定事業者賞受賞
3 月31日	平成25年度最高環境責任者による見直しの実施

環境目的・環境目標および具体的取り組みの達成度

平成25年度上浜キャンパス(附属病院を除く)では、環境方針における教育・研究・社会貢献・業務運営の4項目に対し、8項目の目的・11項目の目標・40項目の具体的

取り組みをEMS年間実施計画に定め、各部署で実施致しました。

環境目標の達成度評価基準



→達成率100%

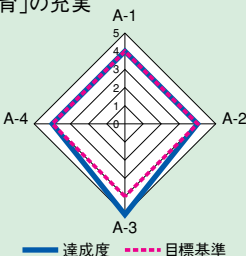
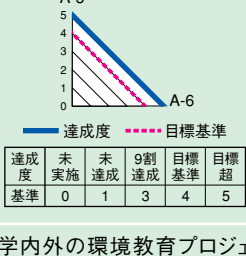
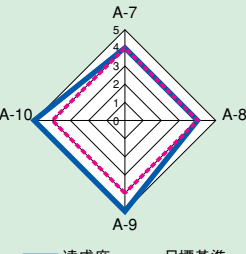


→達成率80%以上

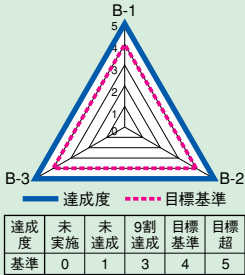
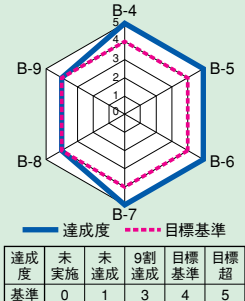
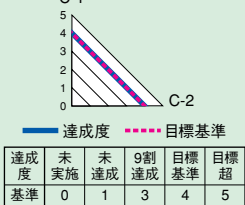
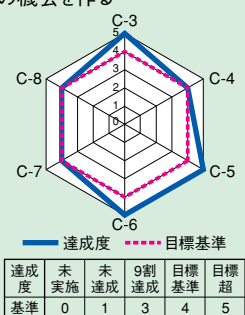


→達成率80%未満

全 学 の 取 り 組 み

方 針	目的	目標 (達成状況の図)	具体的な取り組み	達成度 ()内は 実績値													
教 育																	
1.持続可能な社会の実現に向けて、地球規模で環境を学んで地域に立脚し実行できるよう、鋭い観察力、強靱な思考力、的確な判断力を養うための環境教育プログラムを開発し、先進的な環境知識と行動力、環境マインドを兼ね備えた学生を社会に輩出する。	環 境 マ イ ン ド の 育 成	「実践・現場重視型の環境教育」の充実	評価：4つの具体的施策は、すべて達成しました。特にMIEUポイントと連携した環境教育の実施回数は、数値目標を超えています。														
		 <table border="1" data-bbox="462 1041 708 1102"><thead><tr><th>達成度</th><th>未実施</th><th>未達成</th><th>9割達成</th><th>目標基準</th><th>目標超</th></tr></thead><tbody><tr><td>基準</td><td>0</td><td>1</td><td>3</td><td>4</td><td>5</td></tr></tbody></table>	達成度	未実施	未達成	9割達成	目標基準	目標超	基準	0	1	3	4	5	根 拠	A-1：「持続発展教育プログラム」の関連講義の履修者へのプログラムチャレンジへの広報	(3回)
		達成度	未実施	未達成	9割達成	目標基準	目標超										
		基準	0	1	3	4	5										
A-2：スマートキャンパスとしての実践型環境教育の実施	(2回)																
A-3：実践型環境教育として、MIEUポイントの取り組みを学生に広報する	(13回)																
A-4：実践型環境教育の実施成果を、環境研究にフィードバックする	(4回)																
		学際的環境教育システムの構築と運用	評価：2つの具体的施策は、すべて達成しました。「アジア・太平洋大学環境教育コンソーシアム」と「ユネスコスクール活動」と共に数値目標を超えています。														
		 <table border="1" data-bbox="462 1460 708 1520"><thead><tr><th>達成度</th><th>未実施</th><th>未達成</th><th>9割達成</th><th>目標基準</th><th>目標超</th></tr></thead><tbody><tr><td>基準</td><td>0</td><td>1</td><td>3</td><td>4</td><td>5</td></tr></tbody></table>	達成度	未実施	未達成	9割達成	目標基準	目標超	基準	0	1	3	4	5	根 拠	A-5：アジア・太平洋大学環境教育コンソーシアムの環境教育の実施	(8回)
達成度	未実施	未達成	9割達成	目標基準	目標超												
基準	0	1	3	4	5												
			A-6：子供およびユースを主体とするユネスコスクール活動に、環境マインドを持った学生が参画する環境教育事業を開催する	(4回)													
	環 境 教 育 カ リ キ ュ ラ ム の 支 援	学内外の環境教育プロジェクトへの支援と連携	評価：4つの具体的施策は、すべて達成しました。特に「環境インターンシップ履修案内件数」と「学生主導の地域連携型環境教育」は数値目標を超えています。														
		 <table border="1" data-bbox="462 1758 708 1818"><thead><tr><th>達成度</th><th>未実施</th><th>未達成</th><th>9割達成</th><th>目標基準</th><th>目標超</th></tr></thead><tbody><tr><td>基準</td><td>0</td><td>1</td><td>3</td><td>4</td><td>5</td></tr></tbody></table>	達成度	未実施	未達成	9割達成	目標基準	目標超	基準	0	1	3	4	5	根 拠	A-7：町屋海岸再生プロジェクトとして、環境ISO学生委員会が主体になる生物多様性関連の教育プログラム(生物多様性調査、地域社会・小学生への教育)を行う	(4回)
達成度	未実施	未達成	9割達成	目標基準	目標超												
基準	0	1	3	4	5												
			A-8：環境インターンシップの学生に履修案内	(2回)													
			A-9：国際環境インターンシップの実施	(4回)													
			A-10：学生主導の地域連携型環境教育の実施をする	(7回)													
研 究																	
2.地域の企業・行政・研究機関との協働による環境科学技術研究を重点的に推進する。	大学キャンパスや施設を活用した、地球温暖化防止、	スマートキャンパス構想のため新規導入する(また、導入した)施設・設備を本格稼働する	評価：3つの具体的施策は、すべて達成しました。特にスマートキャンパス実証事業成果の公表は、数値目標を超えています。														

12.環境マネジメントシステムの概要

全 学 の 取 り 組 み																												
方 針	目的	目標 (達成状況の図)	具体的な取り組み	達成度 ()内は 実績値																								
大学キャンパスや施設を活用し、地球温暖化防止、自然共生、資源・エネルギー利用等の革新技术の実現化立証に供する。	自然共生等の革新技术の実現化	 <table border="1"><thead><tr><th>達成度</th><th>未実施</th><th>未達成</th><th>9割達成</th><th>目標基準</th><th>目標超</th></tr></thead><tbody><tr><td>基準</td><td>0</td><td>1</td><td>3</td><td>4</td><td>5</td></tr></tbody></table> スマートキャンパス構想に関連した、学生および教職員が行う環境活動の Recherche  <table border="1"><thead><tr><th>達成度</th><th>未実施</th><th>未達成</th><th>9割達成</th><th>目標基準</th><th>目標超</th></tr></thead><tbody><tr><td>基準</td><td>0</td><td>1</td><td>3</td><td>4</td><td>5</td></tr></tbody></table>	達成度	未実施	未達成	9割達成	目標基準	目標超	基準	0	1	3	4	5	達成度	未実施	未達成	9割達成	目標基準	目標超	基準	0	1	3	4	5	B-1：キャンパスに再生可能エネルギーの設備を導入する	(3回)
		達成度	未実施	未達成	9割達成	目標基準	目標超																					
		基準	0	1	3	4	5																					
		達成度	未実施	未達成	9割達成	目標基準	目標超																					
		基準	0	1	3	4	5																					
		根拠	B-2：キャンパスに導入した再生可能エネルギーとガスコージェネレーションの運用によるCO2排出量削減効果を検証する	(3回)																								
			B-3：スマートキャンパス実証事業の成果を含めた取り組みを公表する	(8回)																								
		評価:6つの具体的施策は、すべて達成しました。特に「MIEUポイントの実施成果・分析・拡充ならびに公表」は、数値目標を超えています。																										
		根拠	B-4：MIEUポイントを対象とした環境活動の整理・拡充	(4回)																								
			B-5：MIEUポイント実施成果を調査分析する	(8回)																								
B-6：MIEUポイント調査分析から活動インセンティブとなる表彰制度を構築する	(1回)																											
B-7：MIEUポイントを対象にした「省エネアイデア募集」を拡充し「環境活動アイデア募集」を実施する	(7回)																											
B-8：MIEUポイントの企業連携	(1回)																											
B-9：スマートキャンパスの研究成果を学外に公表する	(22回)																											
社 会 貢 献																												
3.自然環境を生かした美しい大学として施設を創設・整備して市民に開放しつつ、地域社会で活動する各種環境団体・市民団体・企業・行政などとの協力関係を結んで地域との協働の場として活用し、情報発信の拠点とする。	三重大学独自の環境主軸のUSR規範の検討と確立	 <table border="1"><thead><tr><th>達成度</th><th>未実施</th><th>未達成</th><th>9割達成</th><th>目標基準</th><th>目標超</th></tr></thead><tbody><tr><td>基準</td><td>0</td><td>1</td><td>3</td><td>4</td><td>5</td></tr></tbody></table>	達成度	未実施	未達成	9割達成	目標基準	目標超	基準	0	1	3	4	5	評価:2つの具体的施策は、すべて達成しました。													
		達成度	未実施	未達成	9割達成	目標基準	目標超																					
		基準	0	1	3	4	5																					
	根拠	C-1：三重大学環境報告書に、環境主軸の教育・研究の実施内容など地域社会への貢献活動を調査し、記載する	(2回)																									
		C-2：「世界一の環境先進大学」実現のため、三重大学環境活動を広く周知できるように環境報告書を作成し公表する	(2回)																									
	キャンパスおよびその周辺地域社会と学生とのコミュニケーション強化	地域社会と連携し、学生のコミュニケーション力を養う交流の機会を作る	 <table border="1"><thead><tr><th>達成度</th><th>未実施</th><th>未達成</th><th>9割達成</th><th>目標基準</th><th>目標超</th></tr></thead><tbody><tr><td>基準</td><td>0</td><td>1</td><td>3</td><td>4</td><td>5</td></tr></tbody></table>	達成度	未実施	未達成	9割達成	目標基準	目標超	基準	0	1	3	4	5	評価:6つの具体的施策は、すべて達成しました。特に「ノーマイカーデーの実施」と「エコプロダクツ展などを活用した環境活動の告知」は数値目標を超えています。												
			達成度	未実施	未達成	9割達成	目標基準	目標超																				
			基準	0	1	3	4	5																				
			根拠	C-3：環境・情報科学館を、教職員や学生、地域社会へ、プラットフォームとして提供する	(128回)																							
				C-4：地域社会と連携した環境教育シンポジウムの開催	(1回)																							
C-5：ノーマイカーデーの実施(通勤、出張、その他を含む) ※通勤等で、学生と接する機会を増やす				(163回)																								
C-6：多様な主体による交流イベントに参加し、三重大学の環境教育・環境研究の成果および環境活動を告知する				(18回)																								
C-7：三重大学モデルの環境マネジメント活動成果(環境経営成果)を、他機関に公表し、環境経営を普及する				(2回)																								
C-8：環境ISO学生委員会が主体になり、町屋海岸再生プロジェクトを行う	(10回)																											
業 務 運 営																												
4.全学が、ISO14001規格に準拠した環境マネジメントシステムを運用することにより、	2020年までにCO2排出量を1990年比で30%削減	2015年までにCO2排出量を1990年比で15%削減(エネルギー使用実態の調査・評価・運用改善・設備改善)	評価:6つの具体的施策は、すべて達成しました。特に「エネルギー使用量削減の運用改善実行」と「緑のカーテン・屋上緑化事業」については、数値目標を超えています。																									
			D-1：エネルギー削減の「三重大学上浜団地地球温暖化対策計画書」達成のために、四半期毎に各部局等に達成状況を周知し確認する	(4回)																								

12.環境マネジメントシステムの概要

全学 の 取 り 組 み																
方 針	目的	目標 (達成状況の図)	具体的な取り組み	達成度 ()内は 実績値												
大学自らが資源の利活用やエネルギー消費低減に努め、低炭素社会・循環型社会の実現に向けて努力する。		<table><tr><th>達成度</th><th>未実施</th><th>未達成</th><th>9割達成</th><th>目標基準</th><th>目標超</th></tr><tr><td>基準</td><td>0</td><td>1</td><td>3</td><td>4</td><td>5</td></tr></table>	達成度	未実施	未達成	9割達成	目標基準	目標超	基準	0	1	3	4	5	D-2：各部局は、エネルギー使用量の削減の運用改善のテーマを定め実行する D-3：環境管理推進センターは、各部局の運用改善テーマをまとめ、センター会議で報告または議論し、学内全体の省エネ運用改善を定着させる D-4：エネルギー使用量を環境管理推進センターのセンター会議で報告する D-5：緑のカーテン・屋上緑化事業に取り組む D-6：運用改善による、エネルギー削減行動に対する評価をして、MIEUポイント制度の利用をする	(97回) (2回) (18回) (18回) (2回)
	達成度	未実施	未達成	9割達成	目標基準	目標超										
	基準	0	1	3	4	5										
		エネルギー使用設備の合理化の検討	<table><tr><th>達成度</th><th>未実施</th><th>未達成</th><th>9割達成</th><th>目標基準</th><th>目標超</th></tr><tr><td>基準</td><td>0</td><td>1</td><td>3</td><td>4</td><td>5</td></tr></table>	達成度	未実施	未達成	9割達成	目標基準	目標超	基準	0	1	3	4	5	評価:3つの具体的施策は、すべて達成しました。 D-7：設備・機器等の更新時期を考慮し、施設のエネルギー合理化の提案をし、導入の有効性・実現性を検討する D-8：省エネルギー性能の高い設備・建築材料などの情報を発注のたび調査し、入札要件に反映させる D-9：使用電力量を調査し、設備運用改善の見直しを複数年かけて検討する
達成度	未実施	未達成	9割達成	目標基準	目標超											
基準	0	1	3	4	5											
紙使用量の削減	紙の適正使用方法の継続と不要(ミス)コピーの削減		評価：1つの具体的施策は、すべて達成しました。 D-10：年間紙の購入量を記録し管理する。前年度比で増加している場合はユニット内で注意喚起を行う。使用するプリンター・印刷機によっては両面印刷することで紙詰まりや故障の原因となる場合を想定し、機器ごとの適正使用に心掛ける	(242回)												
廃棄物排出量の削減	廃棄物排出時の資源分別手順の確立と学内周知	<table><tr><th>達成度</th><th>未実施</th><th>未達成</th><th>9割達成</th><th>目標基準</th><th>目標超</th></tr><tr><td>基準</td><td>0</td><td>1</td><td>3</td><td>4</td><td>5</td></tr></table>	達成度	未実施	未達成	9割達成	目標基準	目標超	基準	0	1	3	4	5	評価：3つの具体的施策は、すべて達成しました。特に「リサイクル・3R活動の普及啓発」と「学内リサイクル情報システムの活用」は、数値目標を超えています。 D-11：室内の資源ごみの分別状況を確認し、記録し、結果を関係者に周知する D-12：三重大学の3R(リデュース・リユース・リサイクル)の利活用を啓発・実施する D-13：ICTを用いてリサイクル情報を全学に周知し、実行する	(264回) (66回) (53回)
達成度	未実施	未達成	9割達成	目標基準	目標超											
基準	0	1	3	4	5											

(※) 具体的取り組みに対する評価は、(旧) 環境管理推進センター (現在の国際環境教育研究センター) が平成25年度EMS年間実施計画の実績からまとめた内容です。

平成25年度は、全学共通した環境目的・目標に対して、記載の「全学の取り組み」以外に「部局独自の具体的な取り組み」を各部局が計画策定し運用を行い、すべての

項目において計画以上の実績をあげています。くわしくは、国際環境教育研究センターホームページに掲載しています。
(URL : <http://www.gecer.mie-u.ac.jp/>)

環境マネジメントシステムの点検・環境内部監査

本学の環境マネジメントシステムが、計画された活動事項に適合しているかどうか、また、それらが適切に実施され、維持されているかを確認するために、環境内部監査を行います。平成25年度は、1～2月に定期内部監査を実施しました。本学の環境内部監査は、環境内部監査員の資格を有する教職員ならびに共通教育科目「環境内部監査員セミナー」を修了し、環境内部監査員の資格を有する一般学生が実施します。教育機関である特徴を活かし、一般



環境内部監査員養成研修 (H25.8.29,30)

学生に本学の環境取り組みを理解し環境活動をする機会を増やすため、環境内部監査に学生が積極的に参加していることが大きな特徴です。



生物資源学部の内部監査 (H25.1.30)

環境内部監査員の養成および資格付与

平成25年度の環境内部監査員養成研修は、平成25年8月29・30日に開催され、教職員23名に環境内部監査員の資格を付与しました。共通教育の授業では、前期・後期集中講座あわせて学生14名に環境内部監査員の資格を付与しました。

※前年度までの環境内部監査員有資格者を合わせ平成26年7月1日現在、環境内部監査グループには189名（教職員137名、学生52名）の環境内部監査員が登録されています。また、監査員の資格を持つ卒業生・退職者・異動者は合わせて204名です。

環境内部監査

1. ISO教育研修

平成25年8月2日から9月25日にかけて、2学部4研究科の環境責任者およびISO14001更新審査受審対象ユニット環境担当者に対して、更新審査の役割や進行について説明し、ISO14001規格と三重大学環境マネジメントシステムとの整合性ならびに昨年度および今年度の実績を確認しました。

2. 定期環境内部監査

平成26年1月15日から2月27日にかけて、2学部4研究科6ユニット、5事務部門6ユニット、その他3ユニット、合計15ユニットにシステム監査とパフォーマンス監査を行いました。

3. 環境内部監査の結果

本学では平成25年度に、32のユニットに対して更新審査研修および環境内部監査を実施し、重大および軽微な不適合の指摘はありませんでした。

環境マネジメントシステム(ISO14001)の更新審査

平成25年10月2日～4日の3日間、本学が運用している環境マネジメントシステムが、ISO14001の規格条項に適合しながら自ら定めた取り決めに従い有効に運用されているか、全プロセスを対象に確認審査が行われました。

- 更新審査日時：平成25年10月2日～10月4日
- 審査登録範囲：上浜キャンパス(附属病院を除く)における教育、研究および社会貢献活動業務運営

- 審査機関：SGSジャパン株式会社

- 審査目的

- ・マネジメントシステムが審査規格のすべての要求事項に適合していることを確認
- ・組織が計画されたマネジメントシステムを効果的に実行していることを確認
- ・マネジメントシステムが組織の方針・目的を達成する能力を有することを確認

更新審査の結果

審査では、環境マネジメントシステム展開などが有効に働いていると判断され、認証登録の更新が行われました。

審査員からの総合的所見では、「学長の強いリーダーシップの下、ISO14001のPDCAサイクルの運用が適切に実施されていることを確認しました。特にスマートキャンパス事業による2,000kW級ガスコージェネ導入および稼働や、環境・情報科学館の新設および運用は、厳しい経営状況の中における大胆なハード面で大学の運用を果たしたのみでなく、環境・情報科学館の総合学習の拠点としての運用や産業技術の研究といった効果も実現しています。さらに、これを通した三重大学生の将来人財としての養成、地域産業の活性化にもつながる活動であり、特筆に値します。今後もISO14001

を最大限利用したシステムの継続的な運用を通じ、パフォーマンスの向上を期待いたします。また、“世界一の環境先進大学”を目指した一連の活動は、この外部への標榜もあり、学内の学生および教職員のマインドが確実に変化していると感じます。今後も“世界一の環境先進大学”実現への推進を期待いたします。」と評価コメントがありました。



トップマネジメントのインタビュー審査



環境保全センター 廃液処理の確認

観察事項

更新審査の結果に関して、不適合はありませんでしたが、次の観察事項がありました。

※観察事項：是正につながる事項としてあげられ、推奨事項のことを言うが是正義務はない項目です。

1. 運用管理(4.4.6)、順守評価(4.5.2)

毒物劇物取扱がある各部門の管理について、特定保管庫での施錠管理および受け払い管理が行われ、年に1度運用状況の点検報告の収集評価が実施しているが、より確実な運用をするために、内部監査等を利用した確認等をするように提案がありました。

Good point

肯定的観察事項

1. 生物資源学部は、ESDプログラム授業も多数が指定されており、教育の提供、人財育成、知の蓄積といった本業とISO上での狙いが合致した活動として、特筆に値すると評価されました。
2. 環境ISO学生委員会は、活動も継続的に発展し、2年生を中心とした組織体制として運営していることは、学生自らの環境活動の場としての価値のみならず、人財育成及び社会経験の機会提供としても非常に大きな効果があり特筆に値と評価されました。
3. 工学部で管理している危険物庫のリスク低減活動として、周辺植栽の強風による転倒防止策の実施は、リスク低減の気づきとして評価されました。
4. 施設部は、A重油使用の廃止に取組み、危険物保管、漏えい、温暖化といった環境上のリスク排除につながるとともに、設備維持及び点検に伴う経費削減効果も上がる活動として、また、設備導入・設備更新は、環境活動と経済活動が両輪で回っていることも確認でき、設備導入の好例として、特筆に値と評価されました。

5. MIEUポイントの運用について学内での環境活動の推進につながっているのみならず、教育プログラムとの連携、大学コミュニティにおける運営プロセス、学外市町においてもコミュニティ拡大及び地域づくり効果が、高く評価されました。
6. ノーマイカーデー推進活動において、部門に合った推進啓蒙の継続により運用が進み、意識と実施が定着していることは特筆に値すると評価されました。
7. 自転車駐輪整備活動において、教員職員が自転車の整頓や声かけを日常的に実施し、緊急車両用駐輪禁止区域や駐輪個所の明示ペイントなど表示による効果も含めて特筆に値すると評価されました。
8. 地域イノベーション学研究所や災害救急医療高度教育研究センター等、広く地域・自治体・企業を巻き込んだ環境教育の推進、伊賀・忍者学、四日市学、近隣小学校等との連携など様々な広報活動が評価されました。

9. スマートキャンパス実証事業において、平成25年2月22日から3月14日のデータでは、CO₂排出量削減効果は21.6%。省エネルギー効果20.1%という成果を上げ、また、学内・自治体・企業・マスコミへの説明会40回以上の実施は特筆に値すると評価されました。

10. 平成25年7月17日から29日に夏季午後集中節電として実施した試験運用において、対象部門

の40%の参加により4～5%減の成果があり、節電活動の有効性は特筆に値すると評価されました。



医学部の審査



生物資源学部の審査

最高環境責任者による見直し

平成25年度の最高環境責任者(学長)の見直しは、平成26年3月31日に総括環境責任者および副総括環

境責任者(各部門長)からの報告事項を元にシステムの見直し評価を実施しました。

見直しの内容

1.『環境方針』の見直し結果

着実に基本方針を含め、環境教育・環境研究・社会貢献・業務運営の取り組みが根付いています。平成26年度も、現在の三重大学環境方針は継続させます。

2.『実施計画一覧』(目的・目標)の見直し結果

平成25年度の環境目的・目標を達成するための具体的な施策は計画通りの成果を上げています。特に「環境教育」と「環境研究」の目標「スマートキャンパス」、「MIEUポイント制度」は、学生・教職員が取り組み、成果が出ています。ノーマイカーデーの実施については、駐車区画以外の駐車利用の実態の改善を含めさらに取り組みの工夫することを期待します。

平成26年度も、スマートキャンパスの設備などハード面の活用、ソフト面として「MIEUポイント」の拡充に注力して、目標の一部を「スマートキャンパス(ハード面)の施設・設備の運用」と「スマートキャンパス(ソフト面)のMIEUポイントに関連したリサーチ活動」に変更します。

3.運用管理の実施結果情報による見直し結果

平成25年度は、ISO14001更新審査も規格要求事項に適合との審査結果が出るなど、マネジメントシステムの定着化ができています。

平成26年度は、本学の特徴を最大限活かしながら、「環

境管理推進センター」と「環境保全センター」の機能も統合し、総合的な環境分野のマネジメントシステムに重点を置く「国際環境教育研究センター」に4月から移行して新たな運用体制にしていきます。

4.その他インプット情報による見直し結果

平成25年度は、地球環境大賞文部科学大臣賞(フジサンケイグループ)と環境コミュニケーション大賞(環境省)、エコ大学ランキング1位(全国学生NPO組織)の受賞など外部の評価が極めて高く、文部科学省による「国立大学法人三重大学の平成24年度に係る業務の実績に関する評価結果」においても、「MIEUポイント」や「ESDプログラム」など環境活動の先進性が評価されました。

5.EMSの変更の必要性についての処置及び指示

環境マネジメントシステムに関しては管理する体制を「国際環境教育研究センター」が中心となり、平成26年度は現状を継続することとし変更はない。「世界一の環境先進大学」の旗印のもと、総括環境責任者および副総括環境責任者には、継続した取り組みと成果を期待します。



最高環境責任者による見直し

情報の伝達・収集および共有の手段

内部および外部コミュニケーションの手段として、インターネット・キャンパスLAN上のネットワークサービスを利用することにより、環境マネジメントシステムの円滑な運用が可能となります。本学では、構成員へのさまざまな環

境関連情報の提供や各部署からの活動記録などの情報集約・共有に、ウェブサイトやMoodleシステム(eラーニング用に開発されたコンテンツ管理システム)、メーリングリストを活用しています。

ホームページ

環境活動のポータルサイトとして、三重大学国際環境教育研究センターのホームページが公開されています。本学の環境への取り組みや、環境ISOに関連する活動などの情報を広く学内外に提供しています。サイトでは、本学の環境方針と、最新版の環境マネジメントマニュアルや環境マネジメントシステム体制（学内向け）、エネルギー使用量などのさまざまな情報にアクセスできると共に、三重大ブランドの環境教育、スマートキャンパス、環境研究・保全、MIEUポイント、ユネスコスクールの活動の紹介を定常的に提供しています。また、報道履歴や学内外で実施される環境関連の各種イベント（町屋海岸清掃や講演会の案内）などのテンポラリーな情報については随時トップページに掲示がなされ、本学の「環境」をキーワードとする各種情報にアクセスしやすくなっています。なお、掲載コンテンツは、国際環境教育研究センターによって管理運営されています。

※
(<http://www.gecer.mie-u.ac.jp/>)



国際環境教育研究センターホームページ

Moodleによる運用サイト

三重大学環境マネジメントシステムにのっとり、各部局において環境への取り組みのPDCAサイクルが実施され、取り組みの計画や記録などを書類管理することは重要な作業となります。作業を容易にすると共に、書類を一元管理し、随時閲覧ができるようにMoodleシステムで構築された「環境マネジメントマニュアル運用サイト」を設けています。ウェブブラウザを使うことによって、マネジメントマニュアル関連書類の参照（書式のダウンロードなど）や活動記録などの作成書類をアップロードすることができます。Moodleサイトへのログインアカウントは、すべての構成員が取得可能で、構成員ならば学外からも安全にアクセスすることができます。この運用サイトの活用は、書類のペーパーレス化にも貢献しています。

この他、国際環境教育研究センターや環境ISO学生委

員会のさまざまな活動・プロジェクト、三重大ブランドの環境教育においてもMoodleを活用して、センター員や学生委員の情報交換・共有のための「国際環境教育研究センターワークサイト」、三重大学環境マネジメントシステムにおける内部監査の書類管理のための「環境ISO監査のページ」、「環境教育実践（MIEUポイント）」のためのサイトおよび「MIEUポイント活動申告」のサイトなどが設けられています。平成25年度からは、スマートフォンでの表示に適したMoodle2を用いて「MIEUポイント活動申告」のサイトを提供しています。これらMoodleサイトのコンテンツは、国際環境教育研究センターによって管理運営されています。

なお、平成26年度には、より利便性が向上した「MIEUポイント活動申告」専用サーバが稼働する予定であり、申告件数の増加が期待されています。

電子メールとメーリングリスト

環境活動に関連した情報の周知には主として電子メールとメーリングリストが用いられています。すべての部局の環境責任者・副環境責任者、ユニット環境担当者、エネルギー管理者のメールアドレスは漏れなくメーリングリストに登録して、各種情報はトップから直接これらの責任者・担当者に伝わります。メーリングリストは人事異動などに伴い、つねにアップデートされた情報で運用されています。

重要な情報が迅速に周知され、ペーパーレス化にも貢献しています。また、使用電力が増大する夏場には、変電施設の監視装置から警報メールがメーリングリストに自動送信されるため、各部局のユニット環境担当者が適切に節電行動を行うことができます。このメーリングリストは、国際環境教育研究センターによって管理運営されています。